

日本獣医生命科学大学
付属ワイルドライフ・ミュージアム

年報

第2号

2018(平成30)年度

日本獣医生命科学大学
付属ワイルドライフ・ミュージアム

日本獣医生命科学大学
附属ワイルドライフ・ミュージアム
年報 第2号



ニホンイノシシ剥製

扉写真解説：ニホンイノシシ剥製

イノシシ(*Sus scrofa*)は日本の里山を代表する大型哺乳動物です。国内には、本州・四国・九州に広く分布するニホンイノシシ(*S. s. leucomystax*)と、南西諸島の一部に生息するリュウキュウイノシシ(*S. s. riukiuanus*)の2亜種が生息しています。

イノシシは十二支として親しまれる一方で、農作物被害を起こす動物としても知られています。雑食性のイノシシは果樹・野菜・イモ類など様々な作物を食害します。また、餌を探して発達した鼻先で田畑や畦^{あぜ}を掘り返すため、食害する量以上に農作物に影響を及ぼしていると考えられます。

扉の剥製は、当館に収蔵されているニホンイノシシ成獣オス個体の剥製です。今年度の自然系展示室企画展「野生鳥獣と農作物被害」では、農作物被害を起こす野生鳥獣の代表例として本剥製の展示を行いました。

巻頭言

2018年度の日本獣医生命科学大学附属博物館「ワイルドライフ・ミュージアム」における博物館活動を取りまとめ、年報第2号として刊行いたしました。巻頭にあたり、今年度のトピックスと来年度の計画をご紹介します。

2015年の開館準備から当館の運営に尽力されてきた梶ヶ谷前館長が2018年3月に定年退職されたことに伴い、同年4月より私が館長を拝命いたしました。同時に、梶ヶ谷前館長には当館顧問として引き続き指導をいただくとともに、石井学芸員が7月より正規採用となりました。さらに、本学事務部の改組に伴い、博物館事務室が新設となり、事務室長として赤星教務課長が兼任となりました。

開学150周年を目指して策定された本学中長期計画「ニチジュウ・ミライ図」で、当館の一般常時公開が目標として示されていることから、今後も博物館活動を発展させるべく、体制の充実に取り組んでまいりたいと考えております。

主要な博物館活動である展示活動については、歴史系展示では、本学の歴史を現在に至るまで紹介するようにリニューアルいたしました。また自然系展示では、「野生鳥獣による農作物被害」をテーマに企画展を開催いたしました。当館が新聞や雑誌等で紹介されたこともあり、一般市民の方の見学も増えてまいりました。

さて、2019年は博物館として活用している本学一号棟(本館)が旧・東京市麻布区役所として竣工して110周年にあたります。来年度はこれを記念して建物の歴史を中心に歴史系展示を充実させたいと考えております。また、自然系展示では、本学の各研究室が取り組む野生動物研究の成果を紹介するパネルなど、新たに追加してゆく計画です。

これからも社会に開かれた大学を実現するために、博物館活動を発展させてゆく所存です。今後とも当館へのご理解とご協力をお願いいたします。

2019(平成31)年3月

附属ワイルドライフ・ミュージアム
館長 羽山 伸一

目次

巻頭言	1
-----	---

I. 展示活動

1. 企画展示	4
2. 常設展示	8
3. その他展示活動	10

II. 教育普及活動

1. 学芸員課程受講生対象事業	11
2. 在学生対象事業	13
3. 受験生対象事業	15
4. 社会連携	15
5. 情報発信	16

III. 収蔵資料

1. 収蔵資料目録概要	17
2. 新規収蔵資料	17

IV. 統計・資料

1. 入館データ	18
2. 組織・構成	20
3. 年間の活動記録	20

(扉写真：ニホンイノシシ剥製)

I. 展示活動

1. 企画展示

2018 年度企画展 野生鳥獣と農作物被害

(1) 実施形態

【主催】

日本獣医生命科学大学付属ワイルドライフ・ミュージアム

【会期】

2018(平成 30)年 8 月 18 日(土)から 2019(平成 31)年 4 月 30 日(火)(予定)

【会場】

日本獣医生命科学大学付属ワイルドライフ・ミュージアム 自然系展示室

【企画構成】

石井奈穂美(学芸員)

(2) 趣旨

わが国の先人たちは、数千年にわたり野生鳥獣たちと向き合いながら耕作を続けてきた。明治の開国後に行われた乱獲や、戦後の国土開発による生息域の改変などを受け、身近な野生鳥獣の多くはその姿を消してしまっただが、1980 年代以降徐々に野生鳥獣の数は回復を始め、地域によっては都市部にまで大型野生鳥獣が定着するようになった。これに伴い、野生鳥獣による農作物被害額は年間 200 億円に達し、日本全国で深刻な社会問題となっている。

本学では、1984(昭和 59)年に日本で初めての「野生動物学教室」を開設したことを皮切りに、関係する研究室にて被害の解決に必要な研究や人材育成に取り組んできた。その中で、野生鳥獣による農作物被害の解決のためには、対策に必要な制度や専門家が社会インフラとして整備されなければならないという結論に達した。

これを実現するためには、まずは野生鳥獣による農作物被害の周知が大きな課題となる。そこで、我々の身近な場所で起こっている野生鳥獣による農作物被害の現状を伝えることを目的とし、本企画展を開催した。

(3) 展示構成

【導入】

野生鳥獣による農作物被害が発生するようになった経緯をパネルにまとめた。

【〇〇と農作物被害】

農作物被害を出している野生鳥獣の剥製とともに、その動物の特徴や被害の様子をまとめたパネルを展示した。

【〇〇と野生鳥獣】

里山の風景を模したミニチュアジオラマとともに、農作物被害が起こる環境についてまとめたパネルを展示した。

【〇〇による農作物被害対策】

対策に関連する資料とともに、対策の概要をまとめたパネルを展示した。

(4) 展示資料の概要

解説パネル：21点 / 剥製：35点 / その他資料：9点

ニホンジカやニホンイノシシなど、農作物被害を起こす野生鳥獣の剥製を中心に展示した。また、農作物被害対策の解説用資料として、発信器付き首輪・中型獣捕獲用の箱わな・電気柵等、実際の対策で用いられる機器を展示した。

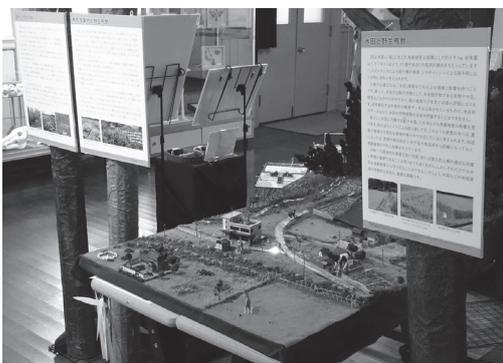
※会期中、必要に応じて展示資料の追加・変更を行った



「導入」ゾーンのパネル



「〇〇と農作物被害」ゾーンのニホンジカ剥製



「〇〇と野生鳥獣」ゾーンのミニチュアジオラマ



「〇〇による被害対策」ゾーンの様子

(5) 関連イベント

【企画展関連ワークショップ：やってきたのはだれだ!? 畑に出てくる動物図鑑】

・実施形態

» 主催

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム

» 主な実施日

2018(平成30)年10月14日(日)：特別開館(140名が参加)

2018(平成30)年11月2日(金)から4日(日)：大学祭に合わせた開館(265名が参加)

※その他個別対応あり

» 会場

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム 自然系展示室

» 企画構成

石井奈穂美(学芸員)

• 趣旨

2015(平成 27)年の開館以降、大学で行われるイベント(大学祭・オープンキャンパス等)に合わせた開館を中心に、展示室の公開を続けてきた。2015(平成 27)年度から 2017(平成 29)年度までの来館者の 8 割は、学内で行われるイベントに合わせた開館日に来館している。イベントに合わせた開館の場合、来館者の主要な目的が当館の見学ではない場合も多く、そのような来館者に対していかに展示の内容に興味を持ってもらうかは大きな課題であった。そこで、展示物を観察するきっかけ作りとして、企画展に関連したワークショップを開催した。

• 内容

ワークショップの参加者の目標を、①動物を観察する②動物の特徴に気がつく③動物についての正しい知識を得る④農作物被害についての知識を持ち帰る、の 4 段階に設定した。

観察・解説の対象は、農作物被害額の多い 4 種の野生鳥獣(ニホンジカ・ニホンイノシシ・カラス・ニホンザル)とした。参加者には対象種のイラストが描かれているワークシートを配布した。イラストは対象種の特徴的な部位(足・角・嘴)が空欄になっており、空欄に押すためのスタンプを対象種の剥製(ニホンザルのみ等身大パネル)の横に設置した。スタンプは対象種ごとに 3 個ずつ(対象種の特徴が正しく描かれているもの 1 個と間違っているものが描かれているもの 2 個)用意した。

参加者には対象種の剥製とパネルを観察し(目標①に相当)、対象種のイラストが完成するようにスタンプを押してもらった(目標②に相当)。スタンプを押した参加者に対しては、スタッフが答え合わせを行うとともに、対象種についての解説を行った(目標③に相当)。最後に、対象種の特徴と農作物被害についてまとめた冊子(図鑑用紙)にワークシートを挟み込み、「畑に出てくる動物図鑑」として製本したものを参加者に配布した(目標④に相当)。

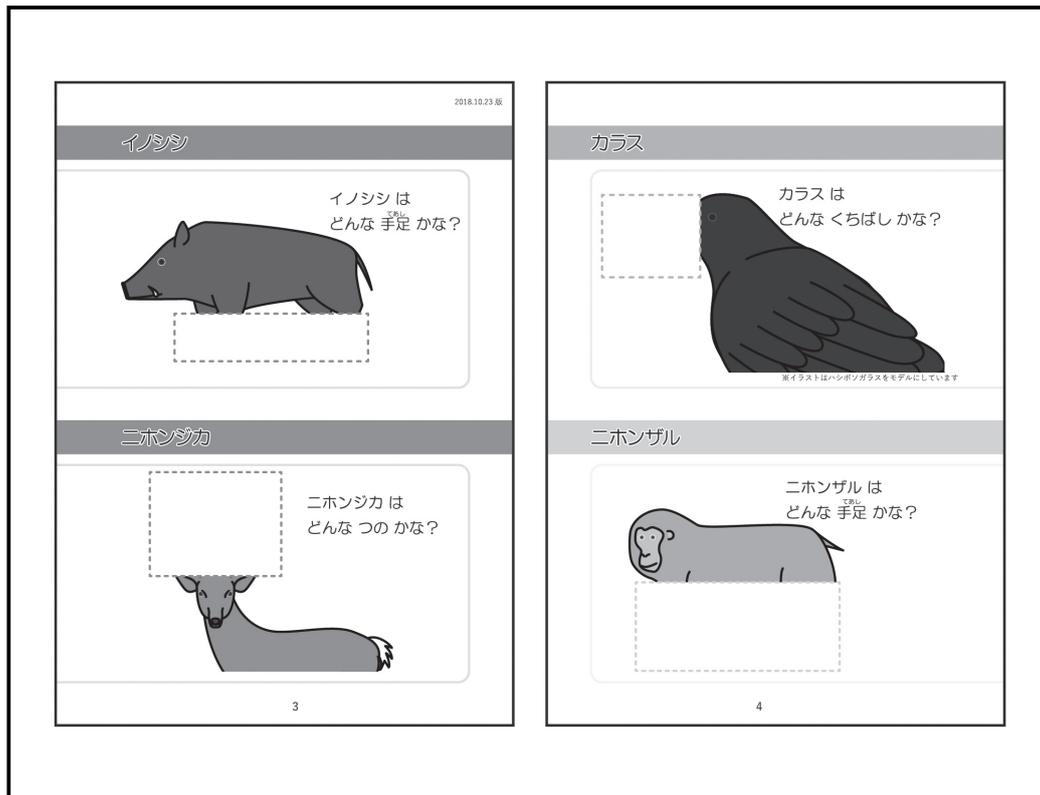
参加者全員が手にするワークシートの内容は、小学校 3 年生でも理解できるように設定した。これは、小学校 3 年生から理科の授業が始まり、身近な生物についての学習が行われることを考慮している。ただし、幅広い年齢層の参加者に対応するため、図鑑用紙には大人向けのより詳細な情報も記載した。



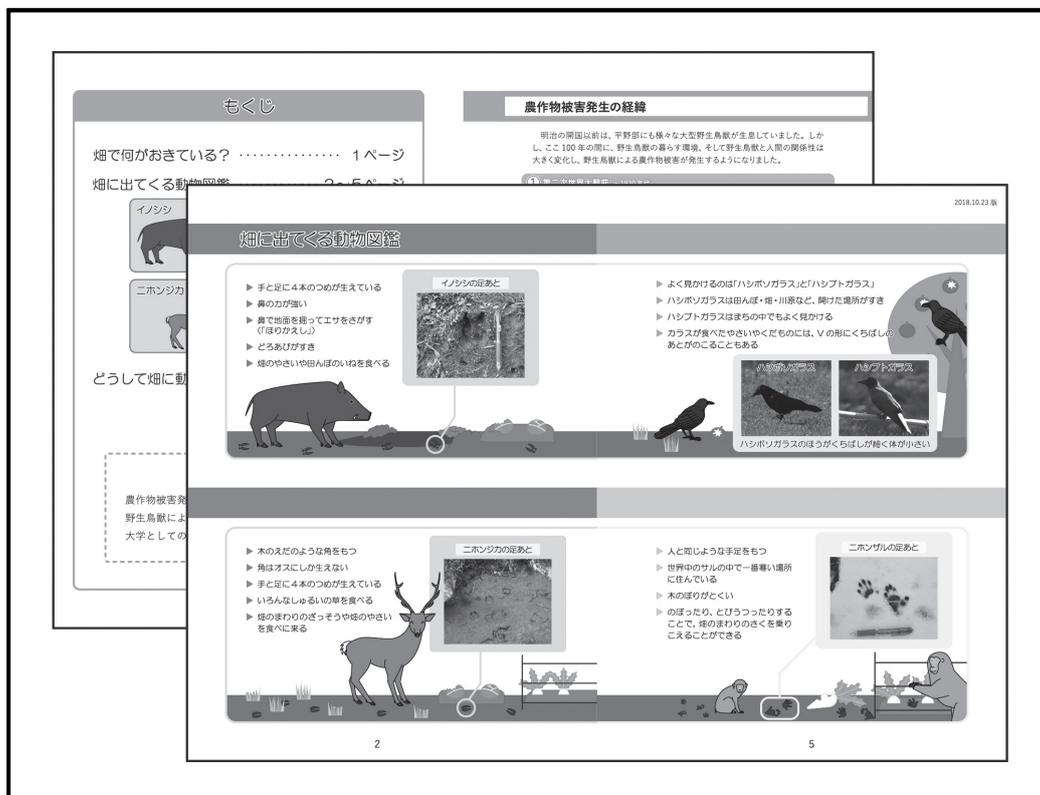
スタンプを押す参加者



学芸員課程受講生による解説



ワークシート



図鑑用紙

2. 常設展示

歴史系展示室(第 2 期常設展示)

(1) 展示期間

2018(平成 30)年 8 月 18 日(土)から継続中

(2) 展示構成

前年度は閉鎖していた展示室後方のスペースを開放し、終戦後の大学昇格から現在に至るまでの本学の歴史について展示・解説を行うブースを新たに追加した。

【大学の歩み】

1881(明治 14)年に学校が設置されてから現在の姿になるまでの本学の歴史について、展示・解説を行った。展示室入口に設置した大学史年表パネルと対応するように、本学の歴史を 7 つの時代(私立獣医学校時代・私立東京獣医学校時代・私立日本獣医学校時代・日本高等獣医学校時代・日本獣医畜産専門学校時代・日本獣医畜産大学時代・日本獣医生命科学大学時代)に分け、それぞれの時代の解説パネル・写真パネル・関連資料を展示した。

【武蔵境への移転】

日本初の私立獣医学校として誕生してから現在の姿になるまでに、本学は 5 回の校地変更を経験している。1937(昭和 12)年には、獣医師法の公布をきっかけに目黒村(現 目黒区)から武蔵境へ移転している。現在の校地での教育の契機となった武蔵境への移転について、当時の状況をまとめ、関連する資料を展示した。

武蔵境への移転の際には、敷地内に複数の校舎が建てられた。この時に、当時使われていなかった麻布区役所旧庁舎を買い取り、学校校舎として活用するために移築したものが現在の一号棟(本館)である。2014(平成 26)年の E 棟竣工後、事務室や講義室としての役目は終えたが、現在も本学のシンボリックな存在としてその姿を残しており、2015(平成 27)年からは博物館としての活用が始まっている。学校校舎としては約 80 年、区役所庁舎時代も含めると 100 年以上の歴史を持つ一号棟について、その歴史を示すパネルを設置した。

(3) 展示資料の概要

解説パネル：12 点 / 写真パネル：33 点 / 資料：23 点

本学創設者の講義をまとめた書籍や、明治時代に使われていた獣医書など、本学の歴史に関する資料を中心に展示した。なお、展示資料のうち、古書の一部は本学図書館にて保管されているものを借用した。



展示室の様子



新たに展示された資料

(4) 関連イベント

該当なし

自然系展示室(第3期常設展示)

(1) 展示期間

2018(平成30)年8月18日(土)から継続中

(2) 展示構成

【骨からわかる動物のこと】

里山に生息する野生動物の頭蓋骨を、ガラスケース2台に分けて展示した。片方のケースには、成長に応じた形態の変化を比較できるように資料を並べた。もう片方のケースには、動物種ごとの違いが比較できるように資料を並べた。

※解説内容は昨年度と同様だが、ガラスケースの導入に伴い、展示する頭蓋骨の数を変更した

【博物館と学芸員課程】

当館は、本学にて学芸員課程を受講している学生の実習の場としての役割も持つ。学芸員課程受講生の活動を紹介するとともに、今までに学芸員課程受講生が学内実習の一環として作製してきた標本を展示した。

(3) 展示資料の概要

骨格標本：25点 / 学芸員課程受講生作製標本：6点



「骨からわかる動物のこと」の展示風景



「博物館と学芸員課程」の展示風景

(4) 関連イベント

該当なし

3. その他展示活動

廊下ミニ展示 1：附属ワイルドライフ・ミュージアムのご案内～博物館の活動について～

(1) 展示形態

【主催】

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム

【展示期間】

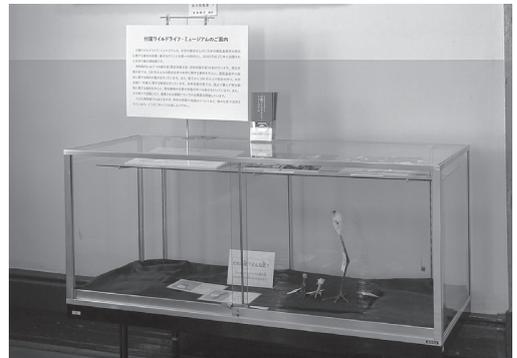
2018(平成 30)年 2 月 23 日(金)から継続中

【会場】

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム
廊下ミニ展示コーナー

【企画構成】

石井奈穂美(学芸員)



ミニ展示1の様子

(2) 展示構成・展示資料の概要

解説パネル：2 点 / 写真パネル：6 点 / 資料：2 点

当館の歴史や活動をまとめたパネル・活動風景の写真・実際に活動で用いている資料(鳥の足の標本)を展示した。

廊下ミニ展示 2：光学機器で時代を読む 1

(1) 展示形態

【主催】

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム

【展示期間】

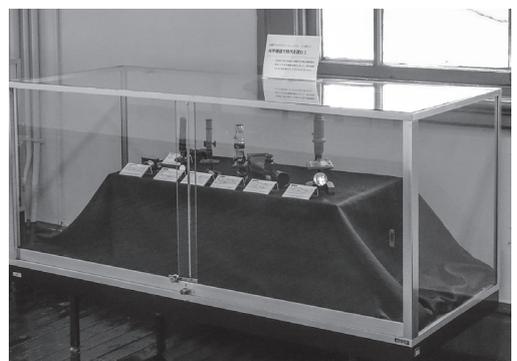
2018(平成 30)年 2 月 23 日(金)から継続中

【会場】

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム
廊下ミニ展示コーナー

【企画構成】

梶ヶ谷博(館長(展示開始当時))・石井奈穂美(学芸員)



ミニ展示2の様子

(2) 展示構成・展示資料の概要

資料 8 点

生物学領域の歴史上で時代とともに変化し、また重要な役割を果たした小型の光学顕微鏡を、解説文とともに展示した。



展示した顕微鏡

廊下ミニ展示 3：光学機器で時代を読む 2

(1) 展示形態

【主催】

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム

【展示期間】

2018(平成 30)年 2 月 23 日(金)から継続中

【会場】

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム
廊下ミニ展示コーナー

【企画構成】

梶ヶ谷博(館長(展示開始当時))・石井奈穂美(学芸員)

(2) 展示構成・展示資料の概要

資料 5 点

比較的大型で新しい時代の顕微鏡を解説文とともに展示した。



ミニ展示 3 の様子



展示した顕微鏡

II. 教育普及活動

1. 学芸員課程受講生対象事業

(1) 講義での活用

【博物館教育論】

・ 期間・来館者数

2018(平成 30)年 9 月 29 日(土) 21 名

2018(平成 30)年 10 月 27 日(土) 21 名

2018(平成 30)年 12 月 15 日(土) 21 名

・ 対象

学芸員課程受講生 3 年生

・ 内容

自然系展示室の見学を受け入れた。また、博物館内の展示を使った学習プログラムの企画・発表の場所として博物館が活用された。

【博物館資料保存論】

・ 期間・来館者数

2019(平成 31)年 1 月 12 日(土) 25 名

・ 対象

学芸員課程受講生 2 年生

- **内容**

自然系展示室・歴史系展示室・資料保管室の見学を受け入れた。また、当館における資料保存の現状や資料害虫対策について、学芸員が解説を行った。

(2) 学内実習の受け入れ

学内実習の一環として、希望した学芸員課程受講生を対象に、博物館の活動に参加する機会を設けるとともに、展示場所を提供した。

【展示替えおよび企画展準備作業】

- **期間・参加人数**

2018(平成 30)年 6 月 30 日(土)から 8 月 7 日(火) 延べ 10 名

- **対象**

学芸員課程受講生 3 年生から 4 年生

- **内容**

学芸員の指導のもと、学芸員課程受講生により資料の陳列・解説パネルの作製・展示用備品の作製が行われた。



解説パネルを作製する受講生



解説パネルを設置する受講生

【特別開館作業】

- **期間・参加人数**

2018(平成 30)年 8 月 18 日(土) 4 名

2018(平成 30)年 8 月 19 日(日) 4 名

2018(平成 30)年 10 月 7 日(日) 8 名

2018(平成 30)年 10 月 14 日(日) 7 名

2018(平成 30)年 11 月 2 日(金) 8 名

2018(平成 30)年 11 月 3 日(土) 15 名

2018(平成 30)年 11 月 4 日(日) 11 名

- **対象**

学芸員課程受講生 2 年生から 4 年生

- 内容

参加者を対象とした事前説明会を開催し、学芸員による展示内容の解説と開館にまつわる作業についての説明を行った。特別開館当日、学芸員課程受講生は展示解説・受付・ワークショップの補助等を行うスタッフとして参加した。



キャンパスツアーの解説を行う受講生



剥製について解説を行う受講生

【受講生による展示：「三者三様、生命科学のきざはし」展】

- 展示期間

2019(平成 31)年 2 月 21 日(木)から 2 月 28 日(木)

- 企画構成

学芸員課程受講生 4 年生 3 名

- 内容

学芸員課程担当教員による指導のもと、卒業論文をテーマとしたポスター展示が行われた。博物館では、2 階の廊下をポスターの設置場所として提供した。

(3) 資料の貸出

【博物館情報・メディア論】

- 期間

2018(平成 30)年 12 月 1 日(土)

2018(平成 30)年 12 月 8 日(土)

- 対象

学芸員課程受講生 2 年生

- 貸出資料

ニホンジカ頭蓋骨標本 1 点

2. 在学生対象事業

(1) 講義・実習場所としての活用

【科学情報機器演習】

- 期間・来館者数

2018(平成 30)年 6 月 20 日(水) 66 名

- 対象

獣医保健看護学科 1 年生

- **内容**

展示資料の写真撮影の場として、博物館が活用された。

【ネットワーク入門講座】

- **期間・来館者数**

2018(平成 30)年 6 月 26 日(水) 87 名

- **対象**

食品科学科 1 年生

- **内容**

展示資料の写真撮影場として、博物館が活用された。

(2) 資料の貸出

【動物生態調査実習】

- **期間**

2018(平成 30)年 5 月 23 日(水)から 6 月 8 日(金)

- **対象**

獣医保健看護学科 3 年生

- **貸出資料**

ホンドギツネ骨格標本 1 点

【野鳥保護活動実習】

- **期間**

2018(平成 30)年 11 月 8 日(木)から 13 日(火)

- **対象**

獣医保健看護学科 3 年生

- **貸出資料**

野鳥の翼標本一式

(3) その他

【入学式に合わせた開館】

- **期間・来館者数**

2018(平成 30)年 4 月 4 日(水) 32 名

- **対象**

新入生および入学式の参列者

- **内容**

入学式当日に博物館を開館し、展示室を自由に見学できるようにした。

【春季見学会】

- **期間・来館者数**

2018(平成 30)年 4 月 5 日(木)から 21 日(土) 50 名

- **対象**

新入生を含む全在学生および教職員

- **内容**

入学式翌日から展示替えまでの約1ヶ月間博物館を開館し、展示室を自由に見学できるようにした。

3. 受験生対象事業

(1) オープンキャンパスに合わせた開館

- **期間・来館者数**

2018(平成30)年8月18日(土)から19日(日) 1,427名

2018(平成30)年10月7日(日) 148名

2018(平成30)年11月3日(土)から4日(日)(大学祭と同時開催) 984名

※8月18日・19日の来館者数にはキャンパスツアーの一環で来館した人数が含まれる

- **対象**

オープンキャンパス参加者

- **内容**

本学オープンキャンパスに合わせて博物館を開館した。8月に開催されたオープンキャンパスでは、学内を巡るキャンパスツアーの会場の一つとして、自然系展示室が活用された。

4. 社会連携

(1) 学外イベントへの協力

【みたか太陽系ウォーク 2018 スタンプラリー】

- **期間**

2018(平成30)年10月14日(日)

- **主催**

三鷹ネットワーク大学

- **内容**

「みたか太陽系ウォーク」は三鷹ネットワーク大学主催のスタンプラリーイベントである。三鷹駅を中心に三鷹市周辺に設置されたスタンプを集めることで、まち歩きを楽しみながら、太陽系の大きさを実感することができる。当館は、イベントに合わせて設置される「彗星スタンプ」の設置場所として活用された。

【第13回 森の地図・スタンプラリー】

- **期間**

2018(平成30)年11月2日(金)から4日(日)

- **主催**

一般社団法人武蔵野コッツウォルズ

- **内容**

「森の地図・スタンプラリー」は一般社団法人武蔵野コッツウォルズ主催のスタンプラリーイベントである。武蔵野地域に設置されたスタンプを集めることで、この地域の歴史や文化にふれながら回遊を楽しむことができる。当館は、日にち限定で特別なスタンプを設置する「スペシャルラリーポイント」として活用された。

(2) その他

【武蔵野ふるさと歴史館との連携】

- **期間**

2018年11月14日(水)より

- **内容**

今後の展示活動における武蔵野ふるさと歴史館と当館の連携について、打ち合わせが行われた。

5. 情報発信

(1) Web サイトの公開

【サイトの構成】

- **博物館のご案内**

当館の目的や特色を紹介

- **博物館ニュース**

開館についてのお知らせや活動の報告を掲載

- **一般公開について**

公開情報を掲載

- **展示室のご案内**

歴史系展示室・自然系展示室の展示内容を紹介

- **アクセス**

博物館までのアクセスを掲載

- **よくあるご質問**

観覧所要時間や駐車場の有無など、今までにいただいた質問に対する回答を掲載

(2) 報道機関等による取材

【週刊ポスト：ふらっと「歴史建物」探訪(小学館)】(2018(平成30)年8月27日(木)発行)

一号棟(本館)建築の紹介

【日本経済新聞：探訪サイエンス(日本経済新聞社)】(2018(平成30)年11月23日(金)発行)

展示の紹介

III . 収蔵資料

1. 収蔵資料目録概要

2015(平成 27)年の開館以来、学芸員課程担当教員による指導のもと、学内実習の一環として学芸員課程受講生による収蔵資料目録の作成が行われてきた。2019(平成 31)年 2 月の時点で作業が終了している資料は次の通りである。

骨格標本：20 点 / 剥製標本：56 点 / 書籍類：788 点

その他、未登録の資料(剥製標本、大学史関連資料 等)を複数収蔵している。2019(平成 31)年度以降の目録完成を目標とし、学芸員による資料整理を続けている。

2. 新規収蔵資料

2018(平成 30)年 3 月 1 日(木)から 2019(平成 31)年 2 月 28 日(木)までに収蔵した資料をまとめた。

(1) 歴史系資料

- ヴォーリズ館棟札 1 点
- 麻布区役所棟札 1 点
- 本館棟札 1 点
- 歴代学長および理事長の写真 17 点
- 富士セミナーハウス建築模型 2 点
- 富士セミナーハウス資材見本パネル 5 点
- 土地写真 1 点
- 日本獣医畜産大学建物等配置図 2 点
- 寄贈資料 8 点
- 寄贈書籍 6 冊



ヴォーリズ館棟札



麻布区役所棟札

本館棟札

(2) 自然系資料

- アズマモグラ仮剥製 1 点
- 人体模型 1 点

IV . 統計・資料

1. 入館データ

(1) 開館情報

【個別見学】【団体見学】

火曜日から金曜日の 10:00 から 16:00、土曜日の 11:00 から 17:00 を見学可能日とし、見学を希望する個人・団体の受入れを行った。見学は事前予約制とし、見学希望者には見学希望日前日までの申請を要請した。

【特別開館】

大学で行われるイベント(大学祭・オープンキャンパス 等)に合わせた開館および博物館が主体となる開館を行った。

【学内対応】

在学生・教職員を対象とした見学会の開催および講義・実習での活用を目的に博物館を開館した。
※講義・実習での活用の詳細は「II. 教育普及活動」を参照

(2) 開館実績

2018(平成 30)年 3 月 1 日(木)から 2019(平成 31)年 2 月 28 日(木)までの開館実績をまとめた。

【月別開館日数】

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
8	14	3	2	1	7	5	14	7	7	6	3	77

【月別対応件数】

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
個別見学	7	1	3	0	1	2	3	2	5	8	3	3	38
特別開館	1	0	-	-	-	1	0	4	1	1	0	0	8
学内対応	0	2	0	2	0	3	4	10	1	1	3	0	26
合計	8	3	3	2	1	6	7	16	7	10	6	3	72

※ 2018(平成 30)年 3 月から 2019(平成 31)年 2 月までの間に団体の受け入れは無かった

※ 2018(平成 30)年 4 月 24 日(火)から 8 月 17 日(金)は展示替えのため、見学可能箇所を限定した状態で個別見学の受け入れと学内対応を行った

(3) 来館者数

2018(平成 30)年 3 月 1 日(木)から 2019(平成 31)年 2 月 28 日(木)までの来館者数をまとめた。

【月別来館者数】

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
個別見学	14	3	8	0	2	2	5	2	7	13	12	4	72
特別開館	46	0	-	-	-	1,427	0	649	1,083	23	0	0	3,228
学内対応	0	82	0	153	0	18	30	67	3	21	30	0	404
合計	60	85	8	153	2	1,447	35	718	1,093	57	42	4	3,704

※ 2018(平成 30)年 3 月から 2019(平成 31)年 2 月までの間に団体の受け入れは無かった

※ 2018(平成 30)年 4 月 24 日(火)から 8 月 17 日(金)は展示替えのため、見学可能箇所を限定した状態で個別見学の受け入れと学内対応を行った

【特別開館時の来館者数】

イベント名	期間	開館日数	入館者数
特別開館	3月29日～30日	2	46
オープンキャンパス	8月18日～19日	2	1,427
平成 30 年度日本獣医生命科学大学保護者面談会 父母会 平成 30 年度第 3 回理事会	10月6日	1	70
オープンキャンパス	10月7日	1	148
日本獣医畜産大学 畜産学科 昭和 54 年・55 年卒業生 同窓会	10月13日	1	2
特別開館	10月14日	1	429
大学祭(オープンキャンパス同時開催)	11月2日～4日	3	1,083
特別開館	12月7日～8日	2	23
合計		8日	3,228名

※ 8 月のオープンキャンパス時の来館者数にはキャンパスツアーの一環で来館した人数も含まれる

《参考 来館者数の推移》

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
個別見学	293	291	263	72
団体見学	-	-	33	0
特別開館	344	911	2,717	3,228
学内対応	-	-	-	404
合計	637	1,202	3,013	3,704

※ 2015(平成 27)年度から 2017(平成 29)年度は、学内対応の人数も個別見学に含まれている

※ 2015(平成 27)年度および 2016(平成 28)年度は団体見学の受け入れ体制が整備されていなかった

※ 2018(平成 30)年度の来館者数は 2019(平成 31)年 2 月 28 日(木)現在までの記録

2. 組織・構成

(1) 日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム

館長 羽山伸一(獣医学部教授)

(2) 日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム事務室

職員 赤星昌史(兼任)

学芸員 石井奈穂美(専任)

(3) 博物館運営委員会

委員長 羽山伸一(獣医学部教授・博物館長)

副委員長 太田能之(応用生命科学部教授)

委員 松石昌典(応用生命科学部教授)

山本俊昭(獣医学部准教授)

時田昇臣(応用生命科学部准教授・学芸員)

木村彰利(応用生命科学部准教授)

加藤卓也(獣医学部講師)

山本昌美(獣医学部講師)

3. 年間の活動記録

2018(平成 30)年 3 月 1 日(木)から 2019(平成 31)年 2 月 28 日(木)までの主な出来事をまとめた。

2018(平成 30)年

3 月

- 29～30 日：特別開館
- 31 日：附属ワイルドライフ・ミュージアム年報第 1 号発行

4 月

- 1 日：博物館事務室を設置 / 博物館長に羽山伸一獣医学部教授が就任
- 24 日：第 1 期歴史系展示室常設展・第 2 期自然系展示室常設展・自然系展示室 2017 年度企画展を終了し、展示替えを開始

8 月

- 18 日：第 2 期歴史系展示室常設展・第 3 期自然系展示室常設展・自然系展示室 2018 年度企画展の公開開始
- 18～19 日：オープンキャンパスの開催に合わせ開館
- 27 日：「週刊ポスト」(小学館)に一号棟(本館)建築の紹介記事が掲載

9月

- 6日：一号棟(本館)内資料害虫生息調査開始(10月12日終了)

10月

- 6日：平成30年度日本獣医生命科学大学保護者面談会および父母会平成30年度第3回理事会にあわせ開館
- 7日：オープンキャンパスの開催に合わせ開館
- 13日：日本獣医畜産大学畜産学科 昭和54年・55年卒業生 同窓会に合わせ開館
- 14日：特別開館 / みたか太陽系ウォーク 2018 スタンプラリーのスタンプ設置場所として博物館が活用される

11月

- 2～4日：大学祭(第3回医獣祭)およびオープンキャンパスの開催に合わせ開館 / 第13回森の地図・スタンプラリーのスタンプ設置場所として博物館が活用される
- 23日：「日本経済新聞」(日本経済新聞社)に展示の紹介記事が掲載

12月

- 7～8日：特別開館

日本獣医生命科学大学 附属ワイルドライフ・ミュージアム 年報 第 2 号
2018(平成 30)年度

発行日 2019 年 3 月 31 日

編集・発行 日本獣医生命科学大学 附属ワイルドライフ・ミュージアム
〒180-8602 東京都武蔵野市境南町 1-7-1
Tel 0422-31-4151

印刷 株式会社 文伸
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17
Tel 0422-60-2211

学校法人日本医科大学
日本獣医生命科学大学
附属ワイルドライフ・ミュージアム

TEL 0422-31-4151(代)

URL : <http://www.nvlu.ac.jp>